

## 2025年度（令和7年度） 関西創価小学校 学校評価

### 1. めざす教育像

児童一人一人の健やかな心と身体を育み、確かな学力を育成する  
闊達・友情・根性をモットーとして、世界市民の基盤を育てる  
恵まれた自然環境の中で豊かな感性を磨き、平和の心を育む

### 2. 創価学園ミッション

創造性豊かな世界市民の育成

### 3. 学園生育成ポリシー [関西創価学園一貫教育]

一人も残らず、「平和主義、文化主義、人間主義」のグローバルリーダーに

### 4. スクールポリシー

明日も行きたくなる学校づくり

1. 創立者 池田先生のもとに集い合った全ての児童が「学ぶ喜び」を感じる学校
2. 創立者 池田先生のもとに集い合った全ての児童が「成長する喜び」を感じる学校

未来につながる学校づくり

1. 使命の舞台で活躍する「児童の可能性」を育てる学校 (可能性の育成)
2. 創立精神を学び「平和を希求する心」を育てる学校 (心の育成)
3. 世界の平和に貢献する「世界市民」を育てる学校 (世界市民の育成)

### 5. 中期的目標

#### (1) 学力を身に付けるための教育内容・方法の充実

- ① 児童が落ち着いて学習に取り組み、友達と切磋琢磨する中で、基礎・基本の定着を図る。さらに、個に応じたきめ細かな指導や学力保障の取り組み、ICT機器の活用等の指導方法の工夫・改善により、児童に学ぶ楽しさを実感させ、授業や家庭学習等に主体的に取り組む意欲や態度を育成する。
- ② 「基礎的な知識・技能」、「知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力」及び「主体的に学習に取り組む態度」、いわゆる学力の三要素から構成される「確かな学力」や、本校の目指す3つの学力（「学んだ力」「学ぶ力」「学ぼうとする力」）を高めることに力点を置いていきたい。「学んだ力」とは、教科をはじめとする学習内容の基礎的・基本的な知識や技能であり、「学ぶ力」とは、問題を考えたり、学んだり、学びあっていく学習方法を含めた学び方である。そして「学ぼうとする力」は、学習内容に関心を持ち、進んで学んでいこうとする意欲や態度である。さらに、活用しよう、深めようとする力でもある。こうした学力をバランス良く育てることを目指し、教育目標や内容を見直していく。
- ③ 学習指導要領総則で示された、育成すべき資質・能力も視野に入れながら、「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」という観点や「主体的・対話的で深い学び」という学びの本質的な観点も大事にしていきたい。そして、学級やグループで話し合い、発表し合うなどの協働的な学習や言語活動、各教科等における探究的な学習活動等に力を入れていく。

## (2) 豊かな人間性を育む教育内容の充実

- ① 価値観の多様化とともに、社会全体にモラルの低下が見られ、社会性や規範意識、道徳心の低下などが指摘される現状を踏まえ、児童に基本的な生活習慣や規範意識を身に付けさせ、豊かな人間性や社会性を育む「心の教育」の充実を図りたい。特に、人・社会・自然などとかかわる体験活動や異学年交流、「ドリーム・プログラム」(卒業生による講演)の充実、家庭との連携を通して、心の教育の充実に向けた取り組みを推進する。
- ② いじめ、不登校等の未然防止、早期発見・早期解決に取り組み、一人一人を大切にし、児童の好ましい人間関係づくりを推進する。

## (3) 「世界市民」を育成するための教育内容の充実

- ① 「世界市民」育成のために、1)「世界の翼」となる英語教育の充実、2)探究型の学習を進め「世界市民」としての「豊かな国際性」を育む教育を推進する。
- ② 英語の短時間学習(英語モジュール)を含めた、英語の授業の充実を目指す。また、創価タイム(総合的な学習の時間)をはじめとした、英語以外の教科での世界市民教育の取り組みを充実させていく。

## (4) 時代に即した学校教育の推進(情報教育・連携教育)

- ① Society5.0の社会に生きる児童は、主体的に対応できるための様々な力が要求される。そのため、ICT機器を学習活動に積極的に活用し、児童の情報活用能力を培うとともに、情報モラル教育を推進し、Society5.0の社会に主体的に対応できる児童の育成を図っていく。
- ② 急激に変化する社会の中で自立した一人の人間として成長していくためには、小学校から中学校へと移行していく段階で豊かな学びと育ちを保障していくことが重要である。そこで、児童の発達を軸に、小学校と中学校が児童の実態や前後のつながりを視野に入れた一貫性のある連携教育(小・中のブリッジプログラム)の充実に努めたい。

## (5) 規律正しい、安全で健康的な学校生活

- ① 遠距離通学者が多い本校の場合、登下校時をはじめとする児童の生活における安全確保は重要な課題である。また、通学時のルールの順守やマナーの向上などは、社会生活を営む上で、是非とも身につけさせたい習慣でもある。ルールの徹底とともに心を育て、思いやりのあるマナーの向上を図る。
- ② 児童の心身の健康を保持・増進していくために、リズムある生活習慣の定着を図るとともに、健康を大切にする意欲や態度を育てたい。また、学校給食では、安全・安心を最優先に衛生管理の徹底に努め、栄養教諭と連携して食に関する指導の充実を図り、望ましい食習慣の確立に取り組んでいく。

## (6) 教員の資質・能力の向上と研修の充実

- ① 創価教育の目指す教育のあり方や、学校が直面する様々な教育課題の解決のため、教員の資質・能力の向上のための各種研修の充実を図る。
- ② 授業力向上のため、校外研修への参加や、意図的・計画的な校内の授業研修を継続的に行っていく。

## (7) 入試広報、児童募集の充実

- ① 少子化が加速する中、本校の目指す教育として掲げている「可能性の育成」、「心の育成」、「世界市民の育成」を柱にした教育活動をより積極的に伝えていく。そのために、教育の具体的な実践映像を効果的に使いたい。また、ホームページを活用することによって教育革新のイメージをアピールしていく。
- ② 学校見学会などの募集行事では、より本校の教育に関する理解を深めていただく機会として、体験授業・体験給食などを実施し、募集に結びつけていきたい。

- ③ 募集要項を受験生や保護者の利便性の拡大を目指し、WEB上に掲載。さらに、WEBを使用しての出願（WEB出願）を活用していく。

## 6. 本年度の重点目標と具体的取り組み

### 〔I〕「豊かな心」を持つ「世界市民」を育むための教育の推進

今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標	自己評価
(1) 創立精神の深化 1. コスモタイムの充実  2. 日常的な取り組みの具現化  3. 「創立者とともに」を読み深める  4. ファウンダータイムの実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コスモタイム（全校道徳）を月に1回実施し、創立者の思想を学ぶ</li> <li>・創立の精神を体得し、日常生活の中で具現化していく</li> <li>・「創立者とともに」を読み深める取り組みを行う</li> <li>・創立者の思想を学ぶ時間として、ファウンダータイムを設ける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月に1回のコスモタイムを実施している</li> <li>・創立精神を具体的な取り組みとして実施している</li> <li>・「創立者とともに」の学習を行っている</li> <li>・ファウンダータイムを実施している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部会、管理職作成のコスモタイムを月1回実施した</li> <li>・児童部などと協力し合い、創価の誇りをあいさつや通学マナーなどで表せるよう指導を重ねた</li> <li>・コスモタイムや記念館見学の活用資料に「創立者とともに」を引用した</li> <li>・夏の教員研修での教員ファウンダータイム、情熱の日での児童ファウンダータイムを実施した</li> </ul>
(2) 道徳教育の充実 1. 子どもが自分事としてとらえられる授業の展開  2. 学年で道徳の授業内容を検討  3. 公開授業を積極的に実施  4. 各学年における授業実践の共有	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年の道徳カリキュラムと道徳全体計画に基づき、計画的に授業を進めるとともに、児童の心を育む道徳の授業を展開する</li> <li>・道徳部会が中心になり、各学年で授業内容を検討する</li> <li>・道徳部会の教員が授業を公開し、授業研究会を行う</li> <li>・各学年で行っている授業実践を共有する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の心を育むための道徳の授業を展開している</li> <li>・各学年で道徳の授業内容を検討している</li> <li>・道徳の公開授業を行い、授業研究会を実施している</li> <li>・各学年で行っている授業実践を共有している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・12月に「誠実」をテーマにした研究授業を実施した。日常生活に落とし込めるよう劇化にも挑戦した</li> <li>・道徳部会が中心となり、学年会等での道徳内容の共有など協議を進めた</li> <li>・道徳部会が中心になり各学年の授業実践を共有し合い、研究授業につなげた</li> <li>・各学年で行っている授業実践を共有した</li> </ul>

<p>(3) 読書習慣の定着</p> <p>1. ノーベルタイムの定着</p> <p>2. ノーベルトレイン（車内読書）の習慣化</p> <p>3. チャレンジ図書（学年別課題図書）の読了を推進</p> <p>4. 読書を通して感情の表現ができるように児童を育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝のノーベルタイムの定着を図る</li> <li>・ノーベルトレインを習慣化する</li> <li>・チャレンジ図書（学年別課題図書）の読了を推進する</li> <li>・「ピノキオおはなし会」を実施する</li> <li>・読み聞かせを積極的に行い読書に親しませる</li> <li>・各行事において読書の推進に取り組む</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝のノーベルタイムやノーベルトレインを習慣化するための取り組みを行っている。（各学級・学年・学校）</li> <li>・90%以上の児童が、チャレンジ図書（学年別課題図書）を読了している</li> <li>・「ピノキオおはなし会」を実施している</li> <li>・図書の時間や学級の時間を活用して、読み聞かせを行っている</li> <li>・各行事において読書の推進に取り組んでいる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノーベルタイムの定着ができているクラスは多いが、スムーズに読書体制に移行できるよう朝のスタートがよりスムーズであるよう指導の改善が必要であるという振り返りを行った</li> <li>・チャレンジ図書は、2025年度の最終で達成率86%（学校全体）であった</li> <li>・ピノキオお話を実施した。良書や一流の文化芸術に触れる機会になった</li> <li>・図書の時間や学級の時間を活用して、読み聞かせを行った 読み聞かせをテーマにした教員の技術向上のための研修を行った</li> <li>・三大大行事の折に、学びの挑戦としてグループ・リーディングなどを行い読書推進を行った</li> <li>・本の帯コンクールでは3年生1名が「学研賞」を受賞した</li> <li>・読書感想画コンクールでは、「大阪優良賞」を1名、「全国優良賞」を1名が受賞した。</li> <li>・6年生でビブリオバトルを行った</li> <li>・ノーベル図書館の貸し出し冊数は22,311冊、1人当たりの貸し出し数の平均は39冊であった</li> </ul>
---	--	---	--

<p>(4) ユネスコスクールとしての体験学習の充実</p> <p>1. きょうだい活動の充実</p> <p>2. 自然を生かした栽培活動の推進</p> <p>3. ユニセフ関係機関と連携し活動を推進</p> <p>4. 札幌創価幼稚園の年長児と1年生の交流を実施</p> <p>5. フィールドワークでの学びを推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生との、きょうだい活動を充実させる</li> <li>・本校の豊かな自然環境を生かした取り組みを実施する</li> <li>・自然を生かした栽培活動を推進するために、生活科と総合的学習（創価タイム）の充実を図る</li> <li>・ユニセフ出前授業で多様性について学ぶ</li> <li>・ユニセフ募金の街頭活動を行う（6年生）</li> <li>・札幌創価幼稚園との交流を行う</li> <li>・フィールドワークを実施し、学びを深める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生との、きょうだい活動を実施している</li> <li>・本校の豊かな自然環境を生かした取り組みを実施している</li> <li>・生活科と総合的学習（創価タイム）の時間に栽培活動を実施している</li> <li>・多様性を学ぶ探究型学習の取り組みを行っている</li> <li>・幼少連携で学びを深めている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年が1年生との、きょうだい活動を実施した</li> <li>2年 学校案内・おもちゃ大会</li> <li>3年 笹飾りづくり</li> <li>4年 竹の子掘り</li> <li>5年 さつまいもの栽培</li> <li>6年 新入生歓迎の集い、清掃活動、日常のお世話、グループ・リーディング、凧づくり、凧あげなど</li> <li>以下の栽培活動を行った</li> <li>・1年 サツマイモ栽培 アサガオ栽培</li> <li>・2年 農園で野菜作り</li> <li>・3年 サツマイモ栽培</li> <li>・4年 タケノコ掘り</li> <li>・5年 サツマイモ栽培</li> <li>・6年 ダイコンの栽培 藍の栽培</li> <li>・6年ユニセフ出張授業を受講した</li> <li>・街頭でユニセフ募金活動を行った</li> <li>・1年と札幌幼稚園とのオンライン交流を行った</li> <li>・春秋のフィールドワークを実施した</li> <li>・学校周辺地域へのフィールドワークを行った</li> <li>・1年 どんぐりひろい</li> <li>・2年 商店街の見学</li> <li>・3年 えんとつ山の見学</li> <li>・4年 地域清掃活動 夏季教室 (学校宿泊)</li> <li>・5年 移動教室を通しての自然体験 (外部施設宿泊)</li> <li>・6年 サマーセミナー (外部施設2泊3日) 修学旅行 (外部施設2泊3日)</li> </ul>
--	--	---	--

<p>6. 主体的・効果的な ICT 機器の活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT 機器を活用することを通して情報モラルの定着を図る</li> <li>主体的・効果的な ICT 機器の活用を実施する</li> <li>メディアリテラシーの向上を図る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT 機器を活用する際に、情報モラルについて指導している</li> <li>主体的・健康的な ICT 機器の活用を実施している</li> <li>メディアリテラシーの向上を図るための取り組みを行っている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報モラルについて、情報の授業で繰り返し指導を行った</li> <li>4 年が実践・展開のまとめとして「つばさプロジェクト」で探求型の学びを推進。ICT 機器も活用し、調べ学習・共同学習を進めた</li> <li>高学年を中心に、キャンバの標準使用が進み学習成果のまとめを効率的に行うことができた</li> <li>体育で使用する児童用クロムブック 8 台を準備し、体育の授業での使用を始めた</li> <li>3～6 年のホームルームサイトに「情報のデジタル教科書」を追加した</li> </ul>
------------------------------	--	--	--

〔Ⅱ〕「確かな学力」の定着で可能性を伸ばす教育の推進

今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標	自己評価
<p>(1) 児童主体の授業による学力の定着</p> <p>1. 主体的に学ぼうとする児童を育てる授業を実施</p> <p>2. 学びに対する内発的な意欲を引き出し、学びの習慣を身につけさせる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年や教科部会で、児童の課題を明確にし、児童の主体的な学びを育む授業の工夫を行う</li> <li>児童の主体性を育む授業研究を行う</li> <li>創価ノート（自主学習ノート）の有効活用やドリルパーク（WEB 学習教材）などを活用しながら、内発的な意欲を引き出し、学びの習慣を身につけさせる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の主体的な学びを育む授業の工夫をしている。</li> <li>全教員が、児童の主体性を引き出すための授業実践を公開授業、研究授業で実施している</li> <li>創価ノート（自主学習ノート）の活用、ドリルパーク（WEB 学習教材）などの活用を通して、学びの習慣を身につけさせている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導の一貫の柱となる「開示悟入」という授業展開を明示した。今後も学校全体で模索・検討をしていく。授業学習会や外部講師を招いての研究会を行った</li> <li>全教員が公開授業を行った</li> <li>創価ノートグランプリを学期ごとに行った</li> <li>ドリルパークの活用を進めた</li> <li>※上記の取り組みにより、アナログとデジタルのバランスを常に考慮する意識を醸成した</li> </ul>

<p>3. 学力調査の結果を確認し、学力の定着を図る</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字検定への取り組みを通して、目標に向かって主体的に取り組める学びの姿勢を育む</li> <li>現学年の学習範囲の漢字の知識をきちんと身につける</li> <li>総合学力調査の結果を精査し、学力に課題のある児童に対して、補習を行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字検定の取り組みを通して、学び方のスキルを身につけている</li> <li>漢字検定で90%以上の児童が合格している</li> <li>学力に課題のある児童に対して、補習を行っている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>繰り返しながら苦手を克服していく自律的な学びの方法を身につけることができた</li> <li>漢字検定の合格率は、96.1%であった</li> <li>[放課後の補習] 4年生：月・金曜日 5年生：月・水曜日 6年生：水・金曜日</li> </ul>
<p>(2) 英語教育の充実</p> <p>1. 楽しく意欲的に学べる英語の授業を実施</p> <p>2. 全学年のET(イングリッシュタイム)の充実</p> <p>3. 5・6年生を対象にした「創始者杯英語暗唱大会」を実施</p> <p>4. 1年生から4年生を対象にした「Special English Day」の設定</p> <p>5. 英語を通して人と繋がる機会を設ける (アメリカ創価大学の学生・創価大学の留学生・関西創価高校・海外来賓など)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科部会は、授業内容の検討を軸に開催し、授業の充実を図る</li> <li>全学年で担任が朝のET(イングリッシュタイム)を教材(Switch on)を活用して実施し、英語力の向上を図る</li> <li>5・6年生を対象にした「創始者杯英語暗唱大会」を行い、児童が意欲的に英語の学習に取り組むきっかけとする</li> <li>1年生から4年生を対象にした「Special English Day」の取り組みを通して英語への関心を高める</li> <li>6年生のオンライン留学、SUAの学生との交流、5年生とSUJ留学生との交流であるグローバルキャンプ、関西創価高校の生徒との交流を通して、英語への関心を高める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科部会で授業内容を検討し、授業の充実を図っている</li> <li>全学年で担任が朝のET(イングリッシュタイム)を教材(Switch on)を活用して実施している</li> <li>「創始者杯英語暗唱大会」を実施している</li> <li>「Special English Day」を実施している</li> <li>6年生のオンライン留学を実施している</li> <li>6年生がアメリカ創価大学の学生と交流している</li> <li>5年生がグローバルキャンプを実施している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>カリキュラムの充実に向けて協議・実践を重ねている</li> <li>イングリッシュタイムと授業との連携について検討している</li> <li>「創始者杯英語暗唱大会」を開催した。特に代表児童にとっては、活躍できる機会となった</li> <li>1年生から4年生を対象に「Special English Day」を開催した。関西学園の英語科のALTの協力も得て、異文化への関心を高めることができた</li> <li>6年生を対象にフィリピン・セブ島へのオンライン留学を行った。既習事項を駆使し、英語でのやり取りに挑戦する機会となった</li> <li>6年生がアメリカ創価大学卒業生との交流会を行った</li> <li>5年生を対象にグローバルキャンプを行った。留学生との交流を通し、英語や異文化への関心を高めることができた。(本年度は、台風の影響で交流時間が短くなったため、後にオンラインでのグローバルキャンプも行った)</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際交流行事（海外来賓歓迎等）を通して、グローバルな視点を養う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関西創価高校の生徒との交流を実施している</li> <li>・国際交流行事を通して、世界に目を向ける教育行っている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関西創価高校ラーニング・クラスター生との交流を実施予定</li> <li>・中国河南省教育庁 訪日団 一行 23 名が来校。中国の教育現場の第一線で活躍されている先生方が、児童と交流、また教職員との教育研修交流・質問会などを行った</li> </ul>
<p>(3) キャリア教育の推進</p> <p>1. ドリーム・プログラムの実施</p> <p>2. 卒業生や中学生・高校生とつながる機会を設ける</p> <p>3. きょうだい学年のつながりからの学びを推進</p> <p>4. 6年生の学園ステイの実施</p> <p>5. 中学生生活ガイダンスの実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業生から体験を聞く「ドリーム・プログラム」を実施し、社会で活躍する先輩から学ぶ機会を設ける</li> <li>・学園ステイや、英語の授業での交流などを通して、中学生・高校生とつながる機会を設ける</li> <li>・きょうだい学年のつながりを通して先輩の姿から学びを深める</li> <li>・学園ステイの機会を通じ、キャリア教育としての学びを深める</li> <li>・一貫教育の視点で、小中の連携・接続をスムーズに価値的に進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業生から体験を聞く「ドリーム・プログラム」を実施している</li> <li>・キャリアパスポートを活用している</li> <li>・学園ステイや、英語の授業での交流などを通して、中学生・高校生とつながる機会を設けている</li> <li>・きょうだい学年のつながりを通して先輩の姿から学びを深めている</li> <li>・学園ステイや中学生生活ガイダンスを通じ、キャリア教育としての学びを深めている</li> <li>・中学生生活ガイダンスを通して中学校生活の見通しと期待感を児童がもつことができている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャビンアテンダントとして働く先輩を迎え、全校児童を対象にお話をいただいた</li> <li>・キャリアパスポートを定期的に記入した。（年5回程度）</li> <li>・学園ステイで、有名海外校への進学を勝ち取った体験談を伺った</li> <li>・関西創価中学校の生徒による中学校の生活についての懇談及び校内案内を行った</li> <li>・中学高校との連携で、先輩を通して学ぶ機会を持つことができた</li> <li>・関西創価中学校管理職による中学生生活ガイダンスを行った</li> <li>・講話や懇談、見学を通して、中学校生活への見通しと期待を持つことができた</li> </ul>
<p>(4) 家庭学習の定着</p> <p>1. 家庭学習の手引きを活用</p> <p>2. ドリルパークの積極的な活用</p> <p>3. 各学年の家庭学習の目標時間の達成を目指す</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「家庭学習の手引き」を活用して、家庭学習の定着を図る</li> <li>・家庭学習において、ドリルパーク（WEB 学習教材）を活用する</li> <li>・「家庭学習の手引き」に示された各学年の家庭学習時間を目指す取り組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「家庭学習の手引き」を保護者に配布し、家庭学習の定着を図っている</li> <li>・家庭学習において、ドリルパーク（WEB 学習教材）を活用している</li> <li>・「家庭学習の手引き」に示された各学年の家庭学習時</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習の手引きを保護者に配布し、学年に応じた取り組みと目標をかきと共有した</li> <li>・家庭学習でのドリルパークの使用が広がった</li> <li>・インフルエンザ流行の影響で、定点でのアンケート実施ができなかった</li> </ul>

	を通して、学習の習慣を身につける	間を80%の児童が達成している	オンラインのゲーム機の普及・スマホゲーム等の広がりがかせとなり、自宅での学習時間を削ってしまっている様子が見られる
--	------------------	-----------------	---

〔Ⅲ〕安全で健康的な学校生活の確立

今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標	自己評価
(1) 安心・安全な環境づくりの推進  1. 防犯、防災教育の推進  2. 教員の見守り、引率で登下校の安全を確保  3. 児童の主体的な取り組みを推進（朝会での発表・標語のコンクールなど）	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間計画に基づいて、防犯、防災のための指導・訓練を実施する</li> <li>教員が登下校時にポイントに立ったり、引率したりすることを通し、児童の安全を確保する。</li> <li>児童部が主導して安全指導を行う</li> <li>なかよし会（地域別児童班）で、地域別安全指導を行う</li> <li>児童の主体的な取り組みを推進するため、児童が朝会で発表したり、標語のコンクールを行ったりする</li> <li>児童部を中心に、日常的に学校生活のルールを遵守するための指導を行う（朝会・給食時の指導）</li> <li>通学時には、進んで挨拶をすること、車内や通学路では「思いやりノートーク」運動を行うことを指導する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年6回の各種訓練（避難・防災・防犯）や安全教室を実施している</li> <li>教員が登下校時にポイントに立ったり、引率したりして、児童の安全を確保している</li> <li>児童部が主導して安全指導を行っている</li> <li>学期ごとになかよし会で、安全指導を行っている</li> <li>児童の主体的な取り組みを推進するため、児童が朝会で発表したり、標語のコンクールを行ったりしている</li> <li>児童部を中心に、日常的に学校生活のルールを遵守するための取り組みを行っている（朝会・給食時の指導）</li> <li>通学時には、進んで挨拶をし、車内や通学路では「思いやりノートーク」運動を行っている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年6回の各種訓練（避難・防災・防犯）や安全教室を実施した。 1～3年 安全教室 4年 防災教室 5年 非行防止教室 6年 薬物乱用防止教室を行った</li> <li>教員が登下校時にポイントに立ったり、引率したりして、児童の安全確保に努めた</li> <li>児童部が主導し、全教員による朝の登校指導、低学年教員を中心に下校指導を行い、児童の安全を見守った</li> <li>学期ごとになかよし会で安全指導を行った</li> <li>代表委員会児童を中心に、登下校マナーに関する創作物語を作成し、全校児童の前で発表した</li> <li>生活マナー向上に関するハガキポスターコンクールを実施し、3学期に表彰を行った</li> <li>各クラスで登下校パワーアップ学級会や、登下校ロールプレイを実施し、児童の意識向上を図った</li> <li>ノーベルトレインの定着をはかるため、毎日カードにシールを貼るなどの取り組みを行った。（低学年）</li> </ul>

<p>4. 安全点検を実施(月末点検)</p> <p>5. 危険回避についての教員研修の実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日、校内を巡回し、安全点検を行う</li> <li>・校内各所の安全点検を実施する(月末点検)</li> <li>・防犯、防災、安全、健康面での危険回避についての教員研修を実施する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日、校内を巡回し、安全点検を行っている</li> <li>・校内各所の安全点検を実施している(月末点検)</li> <li>・防犯、防災、安全、健康面での危険回避についての研修を実施している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・苦情があった際には、迅速に対象児童を確認して個別指導を行った。</li> <li>・管理職で当番を決め、校内巡回と安全点検を毎日行った</li> <li>・月末点検を実施した危険箇所等の確認を行った</li> <li>・エピペンの使用、AEDの使用、心肺蘇生等の研修を行った。</li> </ul>
<p>(2)健康づくりの推進</p> <p>1. 年間計画に則った体力づくりの推進(外遊び強化期間、鉄棒、縄跳び、持久走の取り組み)</p> <p>2. 体力テストを実施し、児童の体力増進を促す</p> <p>3. 養護教諭による児童への健康指導</p> <p>4. 食育教育の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間計画に則った体力づくりを推進する(外遊び強化期間、鉄棒、縄跳び、持久走の取り組み)</li> <li>・体力テストを実施し、その結果を通して、児童の体力増進のための取り組みを行う</li> <li>・養護教諭による児童への健康指導を実施(朝会・身体測定時・「ほげんだより」など)</li> <li>・栄養教諭による食育の授業を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間計画に則った体力づくりの推進している(外遊び強化期間、鉄棒、縄跳び、持久走の取り組み)</li> <li>・体力テストの結果を生かした児童の体力増進のための取り組みを行う</li> <li>・養護教諭による児童への健康指導を実施している(朝会・身体測定時・「ほげんだより」など)</li> <li>・栄養教諭による食育の授業を実施している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間計画に則った体力づくりの推進を行った「なわとびカード」を配布し、目標や成果がを可視化した。また、なわとびギネスとして、高い目標に挑戦できる環境づくりをした</li> <li>・女子児童の体力テスト結果で、全国平均を下回る項目がいくつか見られた。普段外遊びをしない児童への推進として、フラフープを休み時間に使える遊び道具として追加した結果、外に出る児童が増加した</li> <li>・朝会・身体測定時の保健指導に加え、今年度初めて全学年に1時間歯科指導の授業を実施した。学年ごとに指導内容を検討し、卒業までの6年間であらゆる角度から歯の大切さを学べるようにカリキュラムを作成した。</li> <li>・栄養教諭による食育の授業を全学年で行った。</li> <li>・給食委員会から MVP を発表し、児童の頑張りを称え合った。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>SDGs の取り組みと連動させながら、食の大切さについて学ませる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SDGs の取り組みと連動させながら、食の大切さについて学んでいる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>10月から11月に「食ロス減らそうチャレンジ月間」として呼びかけを行い、食べ残しの削減を実現した。</li> <li>食育授業の実施内容や児童の感想をクラスルームで保護者にお知らせしたり、給食トークで全校に紹介したりした</li> </ul>
<p>(3) いじめを未然に防ぐ教育の推進</p> <p>1. 「いじめ防止基本方針」に則り、いじめの未然防止に努める</p> <p>2. いじめ見逃しゼロを目指す</p> <p>3. 児童の状況を把握できるよう教員の研修を行う</p> <p>4. いじめ防止対策委員会が迅速に対応する</p> <p>5. 道徳教育を強化し、児童の心の育成を図る</p> <p>6. 家庭との連携を強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「いじめ防止基本方針」を全教員で確認し、いじめの未然防止に努める</li> <li>いじめ見逃しゼロを目指すし、日常的に児童の様子を丁寧に観察する</li> <li>各学期、「学校生活アンケート」を実施し、児童の状況を把握する</li> <li>いじめや不登校、ASD、ADHD についての教員研修を実施する</li> <li>心配な事案が発生したときは、いじめ防止対策委員会が迅速に対応する</li> <li>いじめ防止のために、道徳教育を強化し、児童の心の育成を図る</li> <li>いじめの早期発見のために、心配な児童の様子があれば家庭に伝え、綿密に連携をとるようにする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「いじめ防止基本方針」を全教員で確認し、いじめの未然防止に努めている</li> <li>日常的に児童の様子を丁寧に観察している</li> <li>各学期に1回、アンケートを実施している</li> <li>いじめや不登校、ASD、ADHD についての教員研修を実施している</li> <li>いじめ防止対策委員会が迅速に対応している</li> <li>道徳教育に力を入れ、いじめを起こさない児童の心の育成を図っている。</li> <li>家庭と綿密に連携をとっている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「いじめ防止基本方針」の確認と研修を年度初めに行った <ul style="list-style-type: none"> <li>複数での対応</li> <li>組織的な対応</li> <li>定期連絡の徹底</li> <li>記録の徹底</li> </ul> を確認した</li> <li>担任・学年主任・管理職での連携や協議を適宜行った</li> <li>学校生活アンケートを各学期毎に実施した</li> <li>不登校、発達に関する研修をスクールカウンセラーを講師に行った</li> <li>ケースカンファレンスを適宜行った。水曜に開催時間の枠を設定し、会議との重なりを避ける工夫をした</li> <li>道徳の研究授業を実施した。</li> <li>必要に応じ適宜家庭との連携を行った</li> </ul>

〔IV〕 教員の資質・能力向上のための研修の充実と業務改善

今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標	自己評価
<p>(1) キャリア研修の充実</p> <p>1. 初任者教員（教員1.2・3年目）の研修を実施</p> <p>2. 青年教員（教員歴4・5・6年目）がFind! アクティブラーナーを積極的に視聴</p> <p>3. 創価学園が主催する2年目研修、10年目研修への参加</p>	<p>・研究部が主体となり、年間計画に則って初任者教員の研修を実施する</p> <p>・青年教員がFind! アクティブラーナーを積極的に視聴していく</p> <p>・創価学園が主催するキャリア研修に参加する</p>	<p>・年6回の初任者研修会を行い、教師力を高めている</p> <p>・青年教員がFind! アクティブラーナーを積極的に視聴している</p> <p>・創価学園が主催するキャリア研修に参加している</p>	<p>・初任者が授業参観しやすいように「WALK! WALK! WALK!」を開催した</p> <p>・初任者研修を計画的に実施した</p> <p>・Find! アクティブラーナーについては内容の更新が課題となった</p> <p>・創価学園が主催するキャリア研修に参加した</p>
<p>(2) 教育力向上の研修の充実</p> <p>1. Find! アクティブラーナーの活用</p> <p>2. 研究部が主体となつての校内研修の実施</p> <p>3. 主体的な学びと学力の定着を目指した各教科での実践を学ぶ</p> <p>4. 札幌創価幼稚園での教員研修を実施</p> <p>5. 関西創価中学校の授業を参観</p>	<p>・各自が自己研鑽のために、Find! アクティブラーナーを活用する</p> <p>・テーマ別の校内研修を実施する</p> <p>・校内研修において、主体的な学びと学力の定着を目指した各教科での実践を学ぶ</p> <p>・幼小連携のため、札幌創価幼稚園での教員研修に参加する</p> <p>・関西創価中学校の授業を参観する</p>	<p>・各自が自己研鑽のために、Find! アクティブラーナーを活用している</p> <p>・テーマ別の校内研修を実施している</p> <p>・校内研修において、主体的な学びと学力の定着を目指した各教科での実践を学んでいる</p> <p>・札幌創価幼稚園での教員研修に参加している</p> <p>・札幌創価幼稚園の年長児と1年生の交流を実施している</p> <p>・関西創価中学校の授業を参観している</p>	<p>・Find! アクティブラーナーについては内容の更新が課題となった</p> <p>・各界テーマを明示した授業学習会を実施した</p> <p>・校内研修において、主体的な学びと学力の定着を目指した各教科での実践を学んだ</p> <p>・札幌創価幼稚園での教員研修に参加した 夏は小学校から幼稚園を訪問、冬は幼稚園からの参観を受け入れ</p> <p>・札幌創価幼稚園の年長児と1年生の交流を実施した（オンラインでの交流）</p> <p>・個人での参観は行ったが、計画的に体制を組んだ参観はできなかった</p>
<p>(4) 教育システムを活用し業務改善の推進</p> <p>1. メディア教育推進部が中心になり業務の改善を推進</p>	<p>・メディア教育推進部が中心になり業務の改善を推進する</p>	<p>・メディア教育推進部が中心になり業務の改善を推進している</p>	<p>・ICTについての役立つ情報を発信した</p> <p>・すべての教室パソコンを、20時に自動的にシャ</p>

2. Google ドライブの活用を効率化	・ Google ドライブの活用の効率化を図る	・ Google ドライブの活用の効率化を図っている	ットダウンする設定にした
3. 情報の共有を推進	・ 教育システムにおける情報を効果的に共有し、業務改善を推進する	・ 教育システムにおける情報を共有し、業務改善を推進している	・ 「デバイス不調報告」(フォーム)を作成した  ・ 生成 AI を使った教員の業務、児童の学びを模索している

## 7. 自己評価の結果と分析・学校評価委員会から

自己評価の結果と分析	学校評価委員会から
<p><b>〔Ⅰ〕 「豊かな心」を持つ「世界市民」を育むための教育の推進</b>            &lt;「豊かな心」を持つ「世界市民」を育むための教育の推進&gt;の重点目標 4 項目における自己評価の平均スコアは 3.10 であり、全体として「良好」から「概ね良好」の評価となった。</p> <p>「創立精神の深化」については、平均スコア 3.13 と着実に推進されている。月に 1 回のコスモタイムやファウンダータイムの実施により、創立者の思想を学ぶ機会が定着した。今後は、学んだ精神をあいさつや通学マナーなどの日常生活により具体的に具現化させていく指導を重ねる必要がある。</p> <p>「道德教育の充実」はスコアは、3.03 であった。12 月の研究授業では劇化を取り入れるなど、児童が自分事として捉える工夫が見られたが、分掌や学年による取り組みの密度に差があるとの指摘もあり、学年間の実践共有が今後の課題である。</p> <p>「読書習慣の定着」は 2.72 と「課題あり」の評価となった。特に高学年において「ノーベルトレイン（車内読書）」の習慣化に苦戦しており、デジタル機器の影響による集中力の低下も懸念されている。一方で、6 年生で実施した「ビブリオバトル」は児童の内発的な意欲を刺激する効果が見られたため、次年度はこうした児童主体の仕掛けをさらに充実させたい。</p> <p>「ユネスコスクールとしての体験学習」は 3.22 と高い評価を得た。異学年交流（きょうだい活動）や、豊かな自然を生かした栽培活動、ユニセフ募金などの社会貢献活動が、児童の豊かな感性と平和の心を育む一助となっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 創立精神と道德教育は創価であることの所以。故にさらに重視してほしい。継承の課題を明確にされたらどうか。</li> <li>・ 宿題がパソコンを使うこともあり、読書習慣の難しさを感じる。家庭での取り組みも工夫もしたい。</li> <li>・ 活字を読む子は中学生になっても安定している。</li> <li>・ なぜ読書習慣の定着が課題なのか明確にし、子どもへの取り組みも明確にしていってほしい。</li> <li>・ さらに楽しく読書に取り組める児童主体の仕掛けをお願いしたい。保護者にも読書のメリットを発信してほしい。</li> <li>・ 誰かのために役立つこと、自己有用感を育む体験学習の取り組みが素晴らしい</li> </ul>
<p><b>〔Ⅱ〕 「確かな学力」の定着で可能性を伸ばす教育の推進</b>            &lt;「確かな学力」の定着で可能性を伸ばす教育の推進&gt;の重点目標 4 項目における自己評価の平均スコアは 2.95 であった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後、益々英語は重要な時代になる。英検の取り組みも進めてはどうか。</li> <li>・ 英語教育は一貫教育で力を入れているのが良い。</li> </ul>

<p>「英語教育の充実」のスコアは3.16と良好な評価である。Special English Day やオンライン留学、海外来賓との交流（中国河南省教育庁訪日団など）を通じ、異文化への関心とグローバルな視点が養われている。</p> <p>「キャリア教育の推進」のスコアは3.09であった。CAとして活躍する卒業生を招いた「ドリーム・プログラム」や学園ステイ、中学生生活ガイダンスなどは、児童が自身の未来に期待を持つ貴重な機会となった。</p> <p>「児童主体の授業による学力の定着」のスコアは2.91と「やや課題」が残った。全教員による公開授業や、ICT（Canva等）の活用による探究学習の推進は見られたが、より多くの児童をいかに主体的な学びに巻き込むかが今後の焦点である。漢字検定の合格率が96.1%と高水準であったことは、基礎学力の定着における一定の成果と言える。</p> <p>「家庭学習の定着」のスコアは2.63と全項目中で最も低いスコアとなった。SOKA ノートグランプリ等の施策はあるものの、オンラインゲームやスマホの普及が学習時間を削っている現状がある。家庭・保護者との課題意識の共有を再構築し、学校外での自律的な学習習慣をいかに育むかが喫緊の課題である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校時代にどこまで家庭学習の習慣を伸ばせばいいのか、何に取り組ませたらいいのか明確でないので、家庭との課題意識の共有も必要と考える。これ以上、宿題が多くても困る児童もいる。</li> <li>・家庭学習の各学年の目標時間の達成率の低さが、低い評価につながったのではないかと考えられる。</li> <li>・宿題をやらなくても叱られない時代の中で、どうしていったら良いか。「努力、忍耐」から「楽しい、わくわく」の時代の変化の中で、楽しませられるのではなく、主体的に取り組めるように段階を踏んでいくことが大事だと考えられる。</li> </ul>
<p><b>【Ⅲ】安全で健康的な学校生活の確立</b></p> <p>「安全で健康的な学校生活の確立」の重点目標3項目における自己評価の平均スコアは3.03であった。</p> <p>「健康づくりの推進」のスコアは3.22と良好である。休み時間の大縄大会やフラフープの導入、なわとびギネスへの挑戦が児童の体力増進と意欲向上に寄与した。また、栄養教諭による食育や全学年での歯科指導など、多角的な健康教育が展開された。</p> <p>「安心・安全な環境づくりの推進」のスコアは2.88で「やや課題」がある。防災・防犯訓練の実施や教員による登下校指導は徹底されているが、児童の登下校マナーや言葉遣いの乱れ、学習規律の緩みが散見される。これらは心の乱れや安全にも直結するため、学校全体で学習規律の徹底に取り組む必要がある。</p> <p>「いじめを未然に防ぐ教育の推進」のスコアは3.00の基準値を維持した。年度初めの指針確認や定期的なアンケート、スクールカウンセラーを講師とした研修等を通じ、組織的な対応体制が整備されている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育面で素晴らしい取り組みが続いているので、引き続き勉強とともに体力面を伸ばしていただきたい。目に見える表彰は励みになっている。</li> <li>・児童は、食育や健康の学習内容に大人以上に興味を持っているので有難い。</li> <li>・登下校の苦情については、児童に共有していただいたので、親子で話し合うことができた。</li> <li>・児童間のトラブルについて対応していただき、安心して送り出すことができた。</li> <li>・正しい言葉遣いをするこゝについては、保護者としても協力していきたい。</li> <li>・いじめの問題は「あること」を前程に、丁寧に取り組まれていることが素晴らしい。</li> </ul>

<p><b>〔IV〕 教員の資質・能力向上のための研修の充実と業務改善</b></p> <p>＜教員の資質・能力向上のための研修の充実と業務改善＞の重点目標3項目における自己評価の平均スコアは3.21と高い数値を示した。特筆すべきは「教育力向上の研修の充実」のスコアで、3.56と全項目中で最も高い評価を得たことである。外部講師（梶田先生、金山先生等）を招いた研究会や、研究部主催の自主研修が非常に勉強になったとの声が多く、教員同士が学び合う「チーム関西小」としての自律的な研修文化が最大の強みとなっている。</p> <p>初任者・若手教員向けの「WALK! WALK! WALK!（授業参観）」も、技術継承に大きく寄与した。</p> <p>「キャリア研修の充実」のスコアは3.03であった。初任者研修は計画的に実施されたが、映像教材「Find! アクティブラーナー」の活用については内容の更新などの課題も見られた。</p> <p>「教育システムを活用した業務改善」は3.03であった。パソコンの20時自動シャットダウン設定やGoogleドライブの効率的な活用が進んだ一方、テストのデジタル化等に伴う新たな業務負担もあり、教育効果を見極めたデジタルとアナログのバランス検討が必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者として、入学式やオリエンテーションから始まり、感動の連続であり、感謝したい。</li> <li>・卒業生として寄付や人材活用できることがあれば協力したい。</li> <li>・教員の健康のためにも、業務制限を設けているのは良いことだと思う。</li> </ul>
---	--

### 【教員の自己評価 全体を通しての特色】

- ・ 教員間の「学びの共同体」の成熟:

教員研修（特に研究部主催の自主研修や新任研修）に対する満足度が極めて高く、教員同士が互いの授業から学び合う姿勢が「チーム関西小」として強固に根付いている。

- ・ 「創立精神」と「体験」の重視:

創立精神の深化やユネスコスクールの活動、健康づくり（大縄大会等）など、学園のアイデンティティに関わる活動は着実に推進されている。

- ・ 「学校外の習慣化」への苦戦:

一方で、読書や家庭学習といった「児童の自律的な家庭での習慣」に関しては、教員の自己評価が低く、学校での指導が家庭まで浸透しきれていない現状が浮き彫りになっている。

### 【教員による自己評価の分析：長所（強み）と短所（課題）】

#### 【強み】教員の教育力向上と体験行事の成功

- ・ 自律的な研修文化：アンケートによる教員の振り返り（自由記述欄）でも「研究部主催の研修が非常に勉強になった」「先生方の技を学べた」という声が多く、授業改善に向けた組織的な熱量が高いのが最大の強みである。
- ・ 体験を通じた活性化：休み時間の大縄大会やユネスコスクールの活動など、児童が楽しみながら取り組める企画が、心身の健康や学習意欲の向上に寄与している。
- ・ 外部リソースの活用：外部講師を招いたレベルの高い研修が、教員の専門性向上に直結している。

#### 【課題】学習規律と家庭連携の壁

- ・ 家庭学習・読書習慣の停滞：スコアが3点を大きく下回っており、特に高学年（6年生）などで「ノーベルトレイン（ノーテレビ・ノーゲーム等）」が徹底できていない、あるいはチャレンジ図書への内発的な動機付けが弱いという指摘がある。

- **生活マナーの課題：**登下校時のマナーや言葉遣いの乱れ、学習規律の緩みが散見され、これらが学力格差や安心・安全な環境づくりに影響を与えている懸念がある。
- **情報の共有格差：**一部の記述に「道徳教育の学年共有がなかった」といった声があり、分掌や学年によって取り組みの密度に差が生じている様子がある。

## 【今後の展望に向けた提案（分析のまとめ）】

### 1. 「児童の内発性」を刺激する施策の充実：

読書習慣について、チャレンジ図書を推奨するだけでなく、児童が紹介し合う「おすすめ図書」「ビブリオバトル」のような、児童主体の「読みたい！」を引き出す仕掛けを更に増やすことが有効と思われる。

### 2. 家庭・保護者との連携強化：

家庭学習の定着は教員だけの努力では限界があるため、登下校のマナーを含め、保護者と課題意識をより深く共有するプラットフォーム（懇談会や通信の活用）の再構築を進めたい。

### 3. 「教員研修」の成果を「授業規律」にも還元：

高まった教員個人の指導力を、個々の授業内での「学習規律（言葉遣いや集中力）」の徹底にフォーカスして反映させるフェーズに来ていると考えられる。

## 【総括と改善】

自己評価と学校関係者評価を踏まえ、今後の重点的な目標・改善方策および学校運営のあり方について以下にまとめた。

### （1）今後、重点的に取り組む目標

#### ① 「豊かな心」を持つ「世界市民」を育む教育の深化：

創立精神を基盤とし、コスモタイムやファウンダータイムを通して創立者の思想を学ぶ機会を定着させる。学んだ精神を、挨拶や通学マナーといった日常生活の具体的な振る舞いとして具現化できるよう指導を重ねる。また、英語教育ではオンライン留学や海外来賓との交流を継続し、国際的な視野を養う。

#### ② 児童の内発的な意欲を引き出す主体的な学びの推進：

授業改善の柱として「開示悟入」の展開を追求し、全教員が公開授業等を通して指導力を磨く。児童が自ら問いを持ち、探究できる場を学級活動や教科の中で積極的に創出する。

#### ③ 読書習慣の定着と「活字文化」の復興：

読書習慣の停滞を重要課題と捉え、「ビブリオバトル」や「読書案内」など、児童が主体的に本に親しむ仕掛けを強化する。良書に触れる機会を増やし、学力の根底となる「活字を読む体力」を養う。「ピノキオおはなし会」「グループリーディング」などの低学年児童への読書刺激となる機会も積極活用する。

#### ④ ICT 機器の戦略的活用と情報モラルの確立：

Canva 等のツールを活用した表現活動を推進する一方で、SNS やデジタル機器による生活習慣の乱れに対応する。情報のデジタル教科書も活用し、Society5.0 時代を主体的に生き抜くためのメディアリテラシー教育を系統立てて実施する。

#### ⑤ 生活規律とマナーの向上：

登下校時のマナーや言葉遣いの乱れに対し、児童部を中心に「思いやりノートーク」運動や地域別安全指導を徹底する。

## (2) 今後の改善方策

本年度、ICT 機器の活用は進んだが、家庭での端末利用が読書や家庭学習の時間を削っている実態も浮かび上がった。メディア教育推進部を中心に、デジタルとアナログの適切なバランスを再考し、家庭での自律的なルール作りを保護者と連携して進めていく。

確かな学力の定着に向けては、漢字検定合格率 96.1%という成果を維持しつつ、算数の複数担当制や SSC（スペシャルスタディークルー）の取り組みを継続し、個々の課題に応じたきめ細かな学力保障を行う。特に家庭学習については、目標時間の達成率向上を目指し、「SOKA ノート（自主学習ノート）」やドリルパークの効果的な活用を家庭と共有していく。

児童の自己有用感を育むため、体験学習（栽培活動やユニセフ募金）や、縄跳びギネス、表彰制度を通じ、一人一人の努力を多角的に称賛する文化の醸成を継続する。教員研修においては、教員の自己評価で最も高い評価となった本校の自律的な研修文化を強みとし、外部講師を招いた研究会を継続するとともに、そこで得た知見を個々の授業における「学習規律」の徹底に還元していく。

## (3) 今後の学校運営のあり方

保護者との信頼関係を一層深め、学校と家庭が同じ課題意識を持って児童を育成できるよう、懇談会や通信を通じた情報共有のプラットフォームを再構築する。教師は「一人も残らず、グローバルリーダーに」とのポリシーのもと、児童の可能性を信じ抜く関わりを徹底する。

不登校やいじめの未然防止に向け、いじめ防止対策委員会やスクールカウンセラーとの連携による組織的な対応を強化し、学校が全ての児童にとって「明日も行きたくなる」安心安全な場であることを目指す。さらに、幼小中高の一貫教育のメリットを最大化させるため、札幌創価幼稚園とのオンライン交流や、関西創価中学校とのブリッジプログラム（授業交流・ガイダンス）をさらに密にする。創立精神を教育の根幹に据え、次代へ、その精神を持続可能な形で継承していく仕組みを整えながら、平和の心を育む魅力ある学校づくりに邁進していきたい。

以上